



県政150周年記念 ひょうご近代150年展関連 夏休みスペシャル「もじ〜る。」

■開催日時：8月4日(土) 13:30~15:30

■参加者：22名

■対象：小学生~高校生

■参加費：500円

■場所：アトリエ2

■材料：片面色紙(LKカラー)・タワシ・紙皿・バケツ
アクリル絵の具・耐水性マーカー・カッター
はさみ・タコ糸・ホッチキス・ハトメ

■完成した作品：



■講師

倉科 勇三(くらしな ゆうぞう) | 園田学園女子大学短期大学部 幼児教育学科 准教授
1971年大阪生まれ。京都市立芸術大学美術研究科修了。造形作家として活動する一方、1996年から2006年まで芦屋市立美術館で教育普及担当の学芸員として、子ども向けイベントを多数企画・実施。参加者がつくることを通して、肌で感じ、発見し、考えていくプロセスを重要視した「場づくり」としてのワークショップを展開している。

制作プロセス

■解説

最初に講師の倉科先生がつくった「もじ〜る。」を見せてもらいました。どうやって作ったんだろう？みなさん興味津々。好きな色紙と絵の具を選び、道具を準備したら制作スタート！今回は手探りでつくる過程を楽しむことを大切にしました。参加者はひとつひとつの制作段階で発見しながら試行錯誤していきます。



3. 縁取りした線に沿ってはさみで切ります。
4. 色のついた面にマーカーで模様を描きます。
5. 切り取った文字を組み合わせてホッチキスでとめます。丸める、ねじる、穴に通すなど試行錯誤して面白いかたちを見つけましょう。平面の文字が立体に変化していきます。
6. 天井から吊り下げられるように穴を開けてタコ糸を通したら出来上がりです。



■参加者の感想

- ・切ったりねじったりなどとても立体的なものが作れて楽しかった。またやってみよう。
- ・くみだてる場所がおもしろかった。
- ・色画用紙を使っていろいろな色の作品ができて楽しかったです。

■保護者の声

- ・普段の生活では体験できないものなので子どもにとっても有意義だったと思います。
- ・完成品が制作過程の出来にあまり左右されないのが特に良かったです。
- ・家でできない発想作品。



■制作

1. 色紙の片面の白い面にアクリル絵の具で文字を書いていきます。荒い筆跡が出るように大胆にタワシを使います。言葉は何でもOK！ちなみに先生が書いたのは「ひやしうどん」。
2. 絵の具の垂れやしぶきを追いかけ、切り取るかたちを確認しながらマーカーで文字を縁取ります。文字のパーツ同士をどこまで繋げるかもポイントです。



■まとめ

「もじ〜る。」の制作プロセスは自由度が高く作り手自身が課題を見つけていく必要があります。組み立てる段階では、平面である文字が立体になることでうまれる空間にどのようにアプローチするかによってさまざまなかたちがうまれました。のぞきこむかたちや紙の裏表のバランスをうまく構成する等のアイデアがひかる作品に仕上がりました。(三好ミュージアムティーチャー)